

## ペット小売業界の「低炭素社会実行計画」

※同実行計画は12月に策定したところであり、これから、会員への周知ならびに計画参加企業の募集を行う予定である。そのため本資料における2013年度の実績値等は、「ペット小売業における環境自主行動計画」の参加企業のなかから任意に提出いただいた資料をもとに測定した参考値となる。

		計画の内容
1. 国内の企業活動における2020年の削減目標	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加企業の店舗における目標年（2020年度）のCO<sub>2</sub>排出量原単位を、基準年（2012年度）と比較して同水準以下とする。</li> <li>CO<sub>2</sub>排出量原単位は、電気使用量から算定したCO<sub>2</sub>排出量を店舗床面積及び営業時間で除して算定する。</li> </ul>
	設定根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペット小売り業者は零細な事業所がほとんどであり、電力使用量の削減策に限りがある。また、自主行動計画の最終年である2012年には、取り得る削減策を実施済みである。低炭素社会実行計画の目標を、2012年比同水準以下のCO<sub>2</sub>排出量原単位とすることは、業界の最大限の努力を踏まえた目標といえる。</li> <li>「CO<sub>2</sub>排出量」は、店舗数の変化（床面積、営業時間など）に影響を受けやすいので、より削減活動実態を反映しやすい「CO<sub>2</sub>排出量原単位」を目標値にもちいる。</li> </ul>
2. 低炭素製品・サービス等による他部門での削減		
3. 海外での削減貢献		
4. 革新的技術の開発・導入		
5. その他の取組・特記事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>商業施設等へのテナント出店など多様な出店形態がある。そのため、電気使用量などの数値算出が不可能な場合もある。そうした店舗においても、ペット小売業における低炭素社会実行計画に参加いただき、CO<sub>2</sub>排出量の削減活動に取り組んで頂く予定である。</li> </ul>

# ペット小売業における地球温暖化対策の取組

平成 26 年 12 月 12 日  
一般社団法人全国ペット協会

※同実行計画は 12 月に策定したところであり、これから、会員への周知ならびに計画参加企業の募集を行う予定である。そのため本資料における 2013 年度の実績値等は、「ペット小売業における環境自主行動計画」の参加企業のなかから任意に提出いただいた資料をもとに測定した参考値となる。

## I. ペット小売業の概要

### (1) 主な事業

愛玩動物もしくはペットおよびペット用品の販売

### (2) 業界全体に占めるカバー率

業界全体の規模		業界団体の規模		低炭素社会実行計画 参加規模	
事業所数	21,715事業所*	団体加盟 企業数	約3,700会員***	計画参加 企業数	5社、80事業所 0.37% (80/21715)
市場規模	売上高1,200億円**	団体企業 売上規模	-	参加企業 売上規模	売上高 207億円 17.3% (207/1200)

\* 動物愛護管理法に基づく動物取扱業の「販売業」の登録数（平成 25 年 4 月 1 日 環境省調べ）。なお、「販売業」の対象となる動物は哺乳類、鳥類、爬虫類のみで（観賞魚や昆虫は対象外）、小売業者以外にも卸売業者等も含まれている。

\*\* 売上高は、ペット（観賞魚や昆虫等も含む動物全体）の生体市場規模（平成 19 年株野生社調べ）

\*\*\* 会員には、ペット小売業者（観賞魚や昆虫等も含む）以外にも、卸売業者やペットの販売を行っていないペットホテルやトリミング等のペットサービス業者、個人会員等も含まれている。

### (3) 計画参加企業・事業所

#### ① 低炭素社会実行計画参加企業リスト

別紙1参照。

#### ② 各企業の目標水準及び実績値

別紙2参照。

### (4) カバー率向上の取組

会報やホームページを通じて、取り組みの広報をおこなう。

## II. 国内の企業活動における2020年の削減目標

### (1)削減目標

#### ① 目標

削減目標（2014年12月12日策定）

・参加企業の店舗における目標年(2020年度)のCO2排出量原単位を、基準年(2012年度)と比較して同水準以下とする。

・CO2排出量原単位は、電気使用量から算定したCO2排出量を店舗床面積及び営業時間で除して算定する。

#### ② 前提条件

削減目標は2014年における事業環境を前提としているため、法規制強化などにより想定を上まわり事業環境が大きく変化した場合は目標の見直しを行う。

#### ③ 目標指標選択、目標水準設定の理由とその妥当性

##### 【目標指標の選択の理由】

自主行動計画で目標指標としていた「CO2排出量」は、店舗数の変化(床面積、営業時間など)に影響を受けやすいため、より削減活動実態を反映しやすい「CO2排出量原単位」を目標指標に変更する。

##### 【目標水準の設定の理由、自ら行いうる最大限の水準であることの説明】

ペット小売り業者は零細な事業所がほとんどであり、電力使用量の削減策に限りがある。また、自主行動計画の最終年である2012年には、取り得る削減策を実施済みである。低炭素社会実行計画の目標を、自主行動計画の2012年比同水準以下のCO2排出量原単位とすることは、業界の最大限の努力を踏まえた目標といえる。

##### 【導入を想定しているBAT(ベスト・アベイラブル・テクノロジー)、ベストプラクティスの削減見込量、算定根拠】

BAT ・ベストプラクティス	削減見込量	算定根拠 (左記の設備機器がBATである根拠、導入スケジュールを含む)

④ データに関する情報

指標	出典	設定方法
生産活動量	<input type="checkbox"/> 統計 <input checked="" type="checkbox"/> 会員企業アンケート <input type="checkbox"/> その他(推計等)	店舗床面積(m <sup>2</sup> ) × 総営業時間(h)
エネルギー消費量	<input type="checkbox"/> 統計 <input checked="" type="checkbox"/> 会員企業アンケート <input type="checkbox"/> その他(推計等)	電気使用量(kWh)
CO <sub>2</sub> 排出量	<input type="checkbox"/> 統計 <input checked="" type="checkbox"/> 会員企業アンケート <input type="checkbox"/> その他(推計等)	電気使用量(kWh) × CO <sub>2</sub> 排出係数0.410 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)  電気事業連合会の2006年度における使用端 CO <sub>2</sub> 排出係数0.410(kg-CO <sub>2</sub> /kWh)

⑤ 係数に関する情報

排出係数	理由/説明
電力	<input type="checkbox"/> 実排出係数 <input type="checkbox"/> 調整後排出係数 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の排出係数に固定 <input checked="" type="checkbox"/> 過年度の実績値(電気事業連合会の2006年度における使用端CO <sub>2</sub> 排出係数0.410(kg-CO <sub>2</sub> /kWh) ) <input type="checkbox"/> その他(説明: )  上記排出係数を設定した理由: CO <sub>2</sub> 排出係数は自主行動計画からの継続性を考慮して、自主行動計画と同じ係数を使用する。
その他燃料	<input type="checkbox"/> 低炭素社会実行計画のフォローアップにおける係数(総合エネルギー統計2012年度確報版)を利用 <input type="checkbox"/> その他(内容・理由: )

⑥ 業界間バウンダリーの調整状況

該当なし
------

⑦ 自主行動計画との差異

- 別紙3参照
- 差異なし

## (2)実績概要

### ① 2013 年度における実績概要

#### 【目標に対する実績】

目標指標	基準年度	目標水準	2013年度実績(基準年度比) ( )内は、2012年度実績
CO2排出量原単位 万t-CO2/(万m <sup>2</sup> ・万h)	2012	0.0027 ±0%に維持	0.0035 128% (0.0027 100%)

(注) 電気事業連合会の 2006 年度における使用端 CO2 排出係数 0.410 (kg-CO2/kWh) を用いた。

#### 【CO2 排出量実績】

CO2排出量 (万t-CO2)	CO2排出量 (万t-CO2) (前年度比)	CO2排出量 (万t-CO2) (基準年度比)
0.7518	8.7 %	8.7 %

(注) 電力排出係数は、調整後排出係数 (2013 年度 0.57kg-CO2/kWh、2012 年度 0.487 kg-CO2/kWh) を用いた。

### ② データ収集実績(アンケート回収率等)、特筆事項

アンケート回収実績 21% (5 社/環境自主行動計画参加会員数 23 会員)  
 ・2014 年 11 月に低炭素社会実行計画への参加を決定したばかりで、まだ参加企業が決まっていない。2013 年度データは「ペット小売業における環境自主行動計画」の参加企業から参考までに任意でデータ提出を求めている。  
 ・自主行動計画 2012 年のアンケート回収実績 100%(23 社/低炭素社会実行計画参加会員数 23 会員)

### ③ 生産活動量、エネルギー消費量・原単位、CO2 排出量・原単位の実績(排出係数固定) 別紙4-1、4-2参照。

#### 【生産活動量】

2013 年度は基準年に対して 27%低い。  
 全国ペット協会は、2014 年 11 月に低炭素社会実行計画への参加を決定したため、まだ参加企業が決まっていない。(2)②で記載のように 2013 年度データを取得しており、サンプル数が少なく、2012 年度 23 社 104 施設に対して、5 社 80 施設である。そのため、生産活動量が下がっている。

#### 【エネルギー消費量、エネルギー消費原単位】

(エネルギー消費量)  
 2013 年度は基準年に対して 7%低い。  
 生産活動量の低減 27%と比較して、7%と低減量が少ないのは、2013 年度の回答企業は主に大規模チェーン店であり1店舗当たりのエネルギー使用量が大きいため。

(エネルギー消費原単位)  
 2013 年度は基準年に対して28%増えた。  
 2013 年度の回答企業は主に大規模チェーン店であり1店舗当たりのエネルギー使用量が大きいため。

(省エネ法ベンチマーク指標に基づく目指すべき水準との比較)  
省エネ法対象外である

【CO2 排出量、CO2 排出原単位】

別紙5の要因分析についても参照。

(CO2 排出量)

2013 年度は基準年に対して 7%低い。

要因分析

- ・省エネ努力分は増加している。2013 年度の回答企業は主に大規模チェーン店であり1店舗当たりのエネルギー使用量が大きいため。
- ・生産変動分は減少している。全国ペット協会は、2014 年 11 月に低炭素社会実行計画への参加を決定したため、現時点でのサンプル数が少ない。2012 年度 23 社 104 施設に対して、5 社 80 施設であるため CO2 排出量が下がっている。

(CO2 排出原単位)

2013 年度は基準年に対して28%増えた。

要因分析

- ・省エネ努力分は増加している。2013 年度の回答企業は主に大規模チェーン店であり1店舗当たりのエネルギー使用量が大きいため。
- ・生産変動分は減少している。全国ペット協会は、2014 年 11 月に低炭素社会実行計画への参加を決定したため、現時点でのアンケート回収実績が低い。2012 年度 23 社 104 施設に対して、5 社 80 施設であるため CO2 排出量が下がっている。

④ 国際的な比較・分析

諸外国における同業種のデータがないため比較できない。

⑤ 実施した対策、投資額と削減効果

別紙6参照。

⑥ 投資実績の考察と取組の具体的事例

(考察)

新店舗の開店や既存店舗のリニューアル時などに、省エネ設備を導入する企業もあるが、多くの零細店舗にとってはコスト負担が大きく、まだ、設備の導入は難しい面もある。

(取組の具体的事例)

照明器具の変更

空調設備の変更

⑦ 今後実施予定の対策、投資予定額と削減効果の見通し

別紙6参照。

- ⑧ 目標とする指標に関する 2013 年度の見通しと実績との比較・分析結果及び自己評価  
別紙4-1、4-2参照。

想定比： 2013年度見通しに対して27.9%増加  
分析・自己評価：  
全国ペット協会は、2014年11月に低炭素社会実行計画への参加を決定したため、現時点でのサンプル数が少ない。CO2排出量原単位が比較的大きい大手企業の回答割合が多いため、CO2排出量原単位が増加した。

**\* 2013 年度の見通し**

全国ペット協会は、2014年11月に低炭素社会実行計画への参加を決定したため、2012年の段階で2013年度の見通しを立てていなかったが、仮に2012年実績と同水準として2013年を想定した。

(注) 想定比 = (基準年度の実績水準 - 当年度の実績水準) / (基準年度の実績水準 - 当年度の想定した水準) × 100 (%)

- ⑨ 2014 年度の見通し  
別紙4-1、4-2参照。

見通しの設定根拠  
生産活動量が2013年から2020年まで、2013年度と同水準として、2014年度の見通しを想定した。

- ⑩ 2020 年度の目標達成の蓋然性  
別紙4-1、4-2参照。

進捗率： 2020年度目標に対して8%増加  
分析・自己評価：  
全国ペット協会は、2014年11月に低炭素社会実行計画への参加を決定したため、現時点でのサンプル数が少ない。CO2排出量原単位が比較的大きい大手企業の回答割合が多いため、CO2排出量原単位が増加した。

(注1) 進捗率 = (基準年度の実績水準 - 当年度の実績水準) / (基準年度の実績水準 - 2020年度の目標水準) × 100 (%)

(注2) BAU 目標を設定している場合は、  
進捗率 = (当年度の想定値 - 当年度の実績水準) / (2020年度の目標水準) × 100 (%)

- ⑪ クレジット等の活用実績・予定と具体的事例  
【活用方針】

- 【活用実績】  
別紙7参照。

【具体的な取組】

--





⑤ 今後実施予定の対策と削減効果の見通し

対策項目	対策内容	削減効果
		t-CO2/年 削減
		t-CO2/年 削減
		t-CO2/年 削減

### Ⅲ. 低炭素製品・サービス等による他部門での貢献

#### (1) 低炭素製品・サービス等の概要、削減見込量及び算定根拠

低炭素製品・サービス等	当該製品等の特徴、従来品等との差異など	削減見込量	算定根拠、データの出所など
水 槽 用 LED ライト	蛍光灯と比較して電力量がおおよそ1/3程度に抑えられるものもある		
クールマット	ジェルやアルミを閉じ込めるなどして、電気を使用しないクールマット		
保温マット	熱反射アルミシートやカーボンなどを使用し、電気を使用せずとも体温であたたかさが続く		

#### (2) 2013 年度の実績

低炭素製品・サービス等	取組実績	削減効果

#### (3) 2013 年度実績の考察と取組の具体的事例

<p>(考察)</p> <p>(取組の具体的事例)</p>
----------------------------------

#### (4) 今後実施予定の取組

<p>(2014 年度に実施予定の取組)</p> <p>(2020 年度に向けた取組予定)</p>
--



#### IV. 海外での削減貢献

##### (1) 海外での削減貢献の概要、削減見込量及び算定根拠

海外での削減貢献等	削減貢献の概要	削減見込量	算定根拠、データの出所など

##### (2) 2013 年度の実績

海外での削減貢献等	取組実績	削減効果

##### (3) 2013 年度実績の考察と取組の具体的事例

(考察)
(取組の具体的事例)

##### (4) 今後実施予定の取組

(2014 年度に実施予定の取組)
(2020 年度に向けた取組予定)



## VI. その他の取組

### (1) 2020年以降の低炭素社会実行計画・削減目標

※全国ペット協会は2014年11月に低炭素社会実行計画への参加を決定した。2020年以降の目標設定については、本低炭素社会実行計画の進捗などを鑑み、2019年頃をめぐりに検討を開始する。

項目		計画の内容
1. 国内の企業活動における2030年の削減目標	目標	
	設定根拠	(設定根拠)  (2025年の見通し)
2. 低炭素製品・サービス等による他部門での削減貢献		
3. 海外での削減貢献		
4. 革新的技術の開発・導入		
5. その他の取組・特記事項		

(2)情報発信

① 業界団体における取組

会報やホームページを通じて情報発信を行う。
-----------------------

② 個社における取組

--

③ 取組の学術的な評価・分析への貢献

--

(3)家庭部門(環境家計簿等)、リサイクル、CO2 以外の温室効果ガス排出削減等の取組

--

(4)検証の実施状況

① 計画策定・実施時におけるデータ・定量分析等に関する第三者検証の有無

検証実施者	内容
<input checked="" type="checkbox"/> 政府の審議会	
<input type="checkbox"/> 経団連第三者評価委員会	
<input type="checkbox"/> 業界独自に第三者(有識者、研究機関、審査機関等)に依頼	<input type="checkbox"/> 計画策定 <input type="checkbox"/> 実績データの確認 <input type="checkbox"/> 削減効果等の評価 <input type="checkbox"/> その他( )

② (①で「業界独自に第三者(有識者、研究機関、審査機関等)に依頼」を選択した場合)

団体ホームページ等における検証実施の事実の公表の有無

<input checked="" type="checkbox"/> 無し	
<input type="checkbox"/> 有り	掲載場所: